

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

中村桂子の「ちょっと一言」

見せてやんないよーって

投稿日：2019.03.29 ニックネーム：mokukiti

自然農の畑の中では、たくさんの生き物が絶妙のバランスでその命を育てているのを間近に観ることができます。そんなたくさんの命の営みを観ていると、そこには人知では計り知ることのできない秩序や意識、社会や文化があるのではないかという気がしてなりません。それがヒトには「不思議」と写り、「知りたい」と思い、「知ろう」と手を加えていきます。「ヒトが手を加える」ということは即ち「自然の理を壊す」ことになってしまっていて、結局そこにある本当の姿を見ることが出来ないではないでしょうか・・・ヒトよりもずっとずっと前から続いてきている命なのですから、そこには新参者のヒトの目線では見ることのできない素敵で素晴らしい社会があってもおかしくはないのではないかしら？ 難しいことは分からないけれど、そんな風に考えた方が楽しいですね。「壊すヤツには見せてやんないよー」って言われてる？

お返事

投稿日：2019.04.01 名前：中村桂子館長

畑をなさりながら「壊すヤツには見せてやらないよー」と言われていると感じるお気持ちよくわかります。でも人間も生きものの一つですから、仲間の気持ちで加われば、生きものたちは喜んでくれるはず・・・生命誌はそのような状況になることを願って始めました。生命誌絵巻の中の一員として行動すれば新参者をはじくなどという意地悪はしないと思うのです。生きもの社会に入りこんで一緒に楽しむことを願っているのですが・・・ダメでしょうか。

その他

虐げられる小さな虫

投稿日：2019.03.23 ニックネーム：野菜畑のどんぐり

ここ2年くらい前から、人間は、微生物や小さな虫たちと一体化していると思うようになってきました。髪の毛や、つめは人間の一部分ですが、あたかも、からだの中の微生物も、からだの一部と思うほど寄り添っている。弱い人間が、強い人間にいじめられることも悲しいですが、虫や、小動物が虐待される方が、実はもっと深刻な事態に結びつくはず。虫や魚たちの活動のフィールドの劣化（自然破壊）を回復の方向へ持って聞かなくてはなりません。百年、二百年未来に続く、じみちで、ささやかな、自分出来ることを始めるしかありません。

お返事

投稿日：2019.03.27 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。皆さんがそのように考えて下さるようになったら、地球はどれだけ暮らしやすい星になることでしょう。生命誌はそんな地球を思い描きながら日々の仕事をしています。お仲間がふえて嬉しいです



- 10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)
- 10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)
- 昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)
- パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)
- あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)



中村桂子の「ちょっと一言」

生きものらしさ(ホメオスタシス)

投稿日：2019.03.19 ニックネーム：ミッキー

アントニオ・ダマシオを読み始めました。
以前、“生きもののこころ”について考えた時、チョウや単細胞生物から考え、中村館長も「心は小さな生きものの所にある」と仰っていました。だから、進化の順序は少しも“意外”じゃないと思いました。
本では感情の動きに先ず驚きました。ホメオスタシスには生きものの不思議な奥深さを感じます。それは“生きものらしさ”であるということをお大事なポイントとして捉え、ゆっくり楽しみながら読み進めたいと思います。

お返事

投稿日：2019.03.27 名前：中村桂子館長

ゆっくり読む本だと思います。また気付いたことなど書き込んで下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

Re: AIについて調べた事

投稿日：2019.03.09 ニックネーム：ミッキー

コメントありがとうございます。サールなど読みかけの本もあるのですが、アントニオ・ダマシオをチラッと見て、先ずこれから読もうと決めました。生命誌につながる、本当に面白そうな本だと感じます。ゆっくり、たっぷり楽しめそう。

お返事

投稿日：2019.03.12 名前：中村桂子館長

お読みになったらまたいろいろお教え下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

AIについて調べたこと

投稿日：2019.03.06 ニックネーム：ミッキー

私は、人間を機械だと考える人々が作るAIに何かしらの違和感を感じています。AIについて調べた事を箇条書きにしました。ご参考になるかどうか解りませんが、ご一読いただければ幸いです。

●AIの仕組み：

最近のAIで主流の技術はCNN[画像系]やRNN[言語系](-NNはニューラルネットワーク)だそうです。脳の神経細胞を手本にしていて、神経結合は数式で定義しています。しかし、この神経回路を模倣する仕組みが“答えは出たけれど、そこに至る過程や理由が解らない”という状況を作り出しています。

●AIの作り方：

一般の人でもAIは作れます。ネットで公開されているツールが使えます。例えば、犬や猫や人を認識し区別するAIを作るには、何千もの犬猫人の画像を読み込ませて学習させます。そして、犬の画像を入力した時に、ネコやヒトではなく「イヌ」と答えるようにAIを教育します。理屈はそうなのですが、犬猫人の画像を沢山集めて教師データを作るのが大変なので、そう簡単には作れません。

●AIの応用状況：

車の自動運転や、会話するAIスピーカーが有名ですが、車の自動運転はまだLevel 2です。一方、最近人間を助けるAIが登場しています。例えば、(1)食道癌の早期発見を熟練医師並みにできるAIが開発され、食道癌診断の経験が浅い専門医の補助をするそうです。(2)万引きが深刻なコンビニ業界で、店長に変わって24時間不審者を監視するAIも登場しました。(3)人手不足で耕作放棄された農地に、AIで自動運転する農耕機械が開発されています。(4)介護支援用AIロボットは、高齢化と介護者の不足が深刻な日本に、今後必要になると思います。現時点でAIは「人間の仕事を奪う」というより、人間を助ける側に立っているようです。もし敢えて否定的な予想をすれば、人間の権力・武力・金力に手を染めるAIは危険な感じがします。

●車の完全自動運転(Level 5)を目指すアメリカのAI研究者によると、脳の“海馬”は短期記憶や空間認識だけでなく、近未来の予測もしているそうです。

人間の危険察知能力をAIに取り込みたいようです。AI研究者は常に人間を研究しています。そういう意味で、彼らが作っているのは“人間もどき”です。

●AIのガイドライン：

悪意を持った人間が“危険なAI”を開発するのを防ぐ為の国際的な安全ガイドラインがあります。AIの研究や倫理などについて基本方針をまとめた「アシロマAI-23原則」が2017年に発表されているそうです。しかし、いくらガイドラインや法律ができて、ゲノム編集ベビーが誕生したように、それを破る人間は現れます。新しい道具を手に入れた人間が人間を傷つける、“人間の自滅”はごめんですね。

お返事

投稿日：2019.03.07 名前：中村桂子館長

お調べ下さったようなAIの現状を皆がよく知り、大量データを活用して利用できるところを上手に使っていく社会をこれから考えなければなりません。そのためにはまず、人間が生きものとして賢く生きる必要があると思っています。そこに生命誌の役割があると考えてさまざまな勉強をしていくのが今必要なことです。



中村桂子の「ちょっと一言」

BRHメールマガジン vol.351

投稿日：2019.03.06 ニックネーム：桜前線

季節は、もうすぐ「春」：虫や、他の生命たちも出てくる「啓蟄」です。vol.351について感想を記載したいと思います。

【中村桂子のちょっと一言】

「蟲愛づる姫」の新たな解釈。また、R. サールの「自然主義」：生命学を取り入れていくこと。そして、アントニオ、ダマシオ等の全て「生き物」につなげて考えていく。など、生命誌(学)の左右の「領域」や、関連の学問(特に館長のおっしゃる)：「哲学」と「脳科学」を研究・勉強していくことは、「生命誌」を進展させていくことに重要と再認識しました。(館長様の文章は少し高等で、しっかり理解するため3~4回読み返しました)

【西川先生の進化研究を覗く 第118回「III 新しい情報社会」】

ず〜っと、西川先生の研究を読んできました。コツコツと進展して、よくここまで、組織的に研究を進められて、「AASJ」への取り組みも見事で、もうすぐ「完成」が観えて来ている様で、期待しています。では、研究館の皆様、お体健康に！

お返事

投稿日：2019.03.07 名前：中村桂子館長

生命誌の新しい方向について御理解いただきありがとうございます。これから少しずつ勉強をしていくつもりですので、よろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2019.03.12 名前：西川伸一顧問

今後は、AASJの方で様々な企画を行いますので、よろしく。



その他

西川先生ありがとうございました

投稿日：2019.03.05 名前：岡野桂子

進化研究を覗く。毎回、授業を受けているつもりで拝読していました。先生が見ていらっしゃる風景、その風景の見える場所まで手取り足取り導いて下さいました。まだぼやけていますが見える喜びは言葉に尽くせません。途中、迷子になりそうになったり、特に記号論から情報につながる辺りで行ったり来たり。しかし、そこで出会えたのは新しい見方で世界が広がるような楽しいひと時でした。学んだことを基により深めていきたいと思っています。進化研究とありますが、なぜかヒト、人間の発生学を学んだような気がしています。よくヒトが生まれてきたなあと思うと同時に、ヒトよあまりむちゃなことをしないでねとも思います。最後まで興味の途切れない授業、本当にありがとうございました。

お返事

投稿日：2019.03.12 名前：西川伸一顧問

惑わせてしまったとなると、本当に申し訳ありませんでした。私のNPOでは、どんな話題についても対話形式の講義を行って、Youtubeでみなさんにも提供しています（多くの場合は患者さんや家族の方に病気の話をしています）。もしここが特に聴きたいということがあり、神戸まで来ていただけるなら、講義を計画しますので、気楽にAASJに連絡いただければ幸いです。



中村桂子の「ちょっと一言」

Re: 天然知能と生命誌

投稿日：2019.03.05 ニックネーム：ミッキー

生きもの感覚で観る日常の世界。穏やかで、ワクワクですね。実はもう一つ報告があります。AIについて調べました。連続の投稿になりますが、よろしく願いいたします。(難しそうなサールさんやアントニオさんは、その後でゆっくりじっくり楽しみながら・・・)

お返事

投稿日：2019.03.06 名前：中村桂子館長

私も少しづつと思っています。御一緒に勉強させて下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

天然知能と生命誌

投稿日：2019.03.03 ニックネーム：ミッキー

「天然知能」を読みました。この本は天然知能の解説にあたって、「言葉による解説」と「モデル(図)による解説」をしています。天然知能自体を説明するモデルは最初の3つで、残りの20ほどはモデルの発展系でいるんな事象を説明しています。しかし、この部分が特に難解、というより趣旨が理解できませんでした。その代わり、「言葉による解説部分」は理解できました。いささか解説調ですが、ご一読いただければ幸いです。

郡司ペギオ幸夫さんは、天然知能を「知覚できないが存在する“外部”を受け入れる知性」と定義しています。それに対する知性として、(A) 自らの経験によって鍛え上げられた一元的価値観によって、全ての知覚されたものを評価する知性と、(B) 世界に対する正しい知識という意味で、「客観的知識」を指向し、自分はそれを所持していると信じている知性、の2つを挙げています。これらからペギオさんの考える天然知能の位置付けが分かります。

本の中程に、天然知能が持つ「向こう側感」の説明があります。私が一番知りたいと思っていた内容です。それは、

人間は左右の目の視差によって目の前の景色に遠近感や立体感を感じていますが、遠景になると左右の網膜に映る景色が同じになり、遠近が感じられない“平面景色”になります。彼はその位置を「スクリーン」と表現しています。そして、天然知能はそのスクリーンの「向こう側を認知する知性」だと語り、その感覚が天然知能の「向こう側感」だと言います。

中村館長は、私の「想像物語」を見て、これは生命誌であり「生きもの感覚」だと仰いました。「想像物語」は、食草園の周りの壁(スクリーン)を透かして見て、その“向こう側”に生命誌の世界を描いています。この感覚は、天然知能の「向こう側感」と一致します。だから、“天然知能は中村館長の仰る「生きもの感覚」である”ということが、ペギオさんの言葉で確認できました。

生命誌で大切な「自然との一体感」は目の前にある自然の風景の「向こう側」にある“生き活きとした自然”を“実感”することです。それは多くの現代人が失ってしまった感覚ですが、生きものは普通にそうしている感覚（生きもの感覚）だと思います。

追伸1：

割愛しましたが、ペギオさんは「外部」としてもう一つ「無意識あるいは潜在意識」を挙げていて、「向こう側感」と合わせて、天然知能の心の動きをモデル1～3で説明されています。

追伸2：

“ペギオ”の名の由来ですが、お子さんが生まれるときに奥さんに名前ぐらい考えてよと言われ、「ペンギン」にするとしたら即座に却下されたそうです。で

も、せっかく考えたのだからと、自分のミドルネームをペギオとしたらしいです。彼はおそらくお子さんにファーストペンギン(先駆者)になって欲しかったのだと私は勝手に思っています。なんとも愛すべきキャラクターの方ですね！

お返事

投稿日：2019.03.04 名前：中村桂子館長

ていねいにお読みになった御報告ありがとうございます。楽しく拝読しました。「生命誌」ではここで言われていることを小ちな生きものを通して日常の中で考えていくつもりです。よろしく願いいたします。



季刊「生命誌」

メルマガ登録をしました

投稿日：2019.03.02 ニックネーム：やっちゃん

ワクワクしながら読ませていただいています。
紙工作のバラエティーに驚いています。紙工作が動くのには更にびっくりしました。印刷環境を整えて、ぜひ挑戦してみたいです。
保育園で夕方から働いていますが、こどもたちは動くものが大好きです。昆虫、恐竜は大好きで、好奇心いっぱいの目で見つめています。生命誌1ダウンロードを活用して、子どもたちと一緒にワクワクを体験しようと計画中です。

お返事

投稿日：2019.03.04 名前：中村桂子館長

生命誌を保育園で生かしていただけるのはとても嬉しいことです。ありがとうございます。科学が関わると大人はすぐ難しいという言葉に向ってしまうのですが、小ちゃい人は大丈夫。難しいなどという言葉も知らないくらいの方がよいかもしれません。

▲ ページの先頭へ